

I 事業の概要

重点評価

I-1 事業の概要

事務事業名	「世界一美しいまち・京都」の推進	所管局部課等	環境政策局循環型社会推進部まち美化推進課
ホームページアドレス	http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000016745.html	(連絡先)	213-4960
		(評価票作成者)	まち美化推進課長 鈴木隆志

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性	24予算額 (千円)	目標達成度評価
27,475	23,591	現状のまま継続	22,728	指標： まちの美化推進住民協定の締結数
業務運営方法	☐ 直営 ☐ 部分委託 ☒ 部分補助等 ☐ 全部委託 ☐ 全部補助等	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 京都市まちの美化推進事業団の年間会費を負担。 世界の京都・まちの美化市民総行動実行委員会 (京都市と京都市まちの美化推進事業団で構成) に対する事業費を負担。		かなり悪い 悪い 普通 良い かなり 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 110% 120% H20年度 H21年度 H22年度
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	京都市美化の推進及び飲料容器に係る資源の有効利用の促進に関する条例	事務事業の性格	☐ 義務的事業 ☒ 任意的事業	
		類型	3 イベント・講座・普及啓発	
開始時期	平成 13 年度	終了(予定)時期	平成 年度	会計区分 ☒ 一般会計 ☐ 特別会計

事業概要	対 象	(誰を、何を) 京都市全域
	活 動 内 容	(どのような手段で) まちの美化を多面的・横断的に推進するため、「京都市美しいまちづくり推進本部」(本部長：市長)を中心にまちの美化事業を推進する。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 美しく、かつ、快適な生活環境の保全、国際文化観光都市としての良好な都市環境の形成を目指す。

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)	26,080	27,679	27,475	23,591	22,728
		需用費(物品・消耗品費等)	10,100	13,373	13,346	9,542	8,100
		負担金補助及び交付金	15,714	13,778	13,778	13,380	12,770
		旅費	128	98	63	130	130
		その他(共済費、賃金、保険料、通信運搬費、使用料及び賃借料、備品購入費)	138	430	288	539	528
	①'	委託料					1,200
	②	委託料が事業費に占める割合(①'÷①)(%)					5.3%
	③	人件費(24年度は見込)(千円)	29,985	11,463	11,187	11,187	11,187
		職員(課長級)(人)	0.59	0.14	0.14	0.14	0.14
		職員(課長補佐級、係長級)(人)	0.59	0.34	0.34	0.34	0.34
		職員(係員)(人)	1.95	0.75	0.75	0.75	0.75
		嘱託職員等人件費(千円)					
	④	年間経費(①+③)(千円)	56,065	39,142	38,662	34,778	33,915
	⑤	特定財源(市税等の一般財源以外)(千円)		3,649	4,534		
		国庫・府支出金(千円)					
		受益者負担分(使用料、手数料等)(千円)					
		その他(基金繰入金、ボランティア袋の広告収入)(千円)		3,649	4,534		
	⑥	京都市年間負担経費(④-⑤)(千円)	56,065	35,493	34,128	34,778	33,915
	⑦	受益者負担率(受益者負担分÷④)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

平成23年度
(平成22年度分)

事業名

「世界一美しいまち・京都」の
推進

Ⅱ 評価結果

Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価

評価実施年度 **23** 年度

A 公共性	(公益性) ☒ より多くの市民に提供されるサービス ☐ 特定の個人又は集団に提供されるサービス	(必需性) ☒ 日常生活に必要不可欠なサービス ☐ 日常生活に必要不可欠でないサービス	『公共性評価』 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1158 315 1326 461"> ②必需・個人消費性 </td> <td data-bbox="1326 315 1461 461"> ①必需・共同消費性 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1158 461 1326 607"> ③選択・個人消費性 </td> <td data-bbox="1326 461 1461 607"> ④選択・共同消費性 </td> </tr> </table> 個人消費性(私益) 共同消費性(公益) 選択	②必需・個人消費性	①必需・共同消費性	③選択・個人消費性	④選択・共同消費性
②必需・個人消費性	①必需・共同消費性						
③選択・個人消費性	④選択・共同消費性						
B 行政関与の妥当性	関与の妥当性の程度(高・中・低) 中	(判断理由) 市民や事業者とのパートナーシップにより実施するものであるが、関係機関の調整が必要であり、行政の関与は欠かせないため。					
C 受益者(サービスを受ける側)負担の妥当性	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="440 788 616 938"> (負担を求める必要性) 無 </td> <td data-bbox="616 788 783 938"> (見直しの必要性) 無 </td> </tr> </table>	(負担を求める必要性) 無	(見直しの必要性) 無	(判断理由) 本事業は特定の個人又は団体に提供されるものではないため。			
(負担を求める必要性) 無	(見直しの必要性) 無						
D 実施主体(サービスを行う側)の妥当性	(政策性) ☒ 政策的意思決定を必要とするサービス ☐ 経常業務の度合いが高いサービス	(行政専門性) ☒ 行政上の専門知識を必要とするサービス ☐ 行政上の専門知識を必要としないサービス	『実施主体の妥当性評価』 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1158 952 1326 1097"> ②経常的・行政専門性 </td> <td data-bbox="1326 952 1461 1097"> ①政策的・行政専門性 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1158 1097 1326 1243"> ③経常的・一般専門性 </td> <td data-bbox="1326 1097 1461 1243"> ④政策的・一般専門性 </td> </tr> </table> 経常業務 政策形成・意思決定 一般専門性	②経常的・行政専門性	①政策的・行政専門性	③経常的・一般専門性	④政策的・一般専門性
②経常的・行政専門性	①政策的・行政専門性						
③経常的・一般専門性	④政策的・一般専門性						
その他	事務事業実施上の課題、環境等外部要因の変化等 まちの美観を損ねている様々な要因に柔軟に対応するため、庁内横断的な体制をより一層強化する必要がある。	当該事務事業を廃止・休止した場合の影響 まちの美観が保持できなくなる恐れがある。	どのような状態になれば事務事業の廃止を検討するのか まちの美観を損ねている様々な要因が完全になくなったとき。	＜取組・見直し状況等＞ 他都市においても様々な美化事業が実施されている。			

Ⅱ 評価結果

事業名 「世界一美しいまち・京都」の推進

Ⅱ-2 業績評価

A 目標達成度	指標名		区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標1	まちの美化推進住民協定の締結数		目標値 …①	箇所	341	356	377	377	387
			実績値 …②	箇所	336	357	367		
			目標達成度 (②÷①)	%	98.5%	100.3%	97.3%		
	指標の種類	増加することが良いとされる指標		評価	良い	かなり良い	良い		
指標2			目標値 …①						
			実績値 …②						
			目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類			評価					
				総合評価					

	指標の選択理由			目標値設定の考え方			
指標1	住民協定締結団体の増加により、住民自らの活動による地域に根ざした美化活動の輪が広がる。			平成24年度の目標設定については、平成22年度から平成23年度にかけて見込んだ締結団体数と同数とした。			
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名		適用年度		単位	
指標2							
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名		適用年度		単位	
分析	<実績値の変動理由等> 市民のまちの美化に対する意識は高揚しているため、住民協定の締結数は年々増加傾向にある。						

B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度
	①	まちの美化住民協定の締結数	箇所	336	357	367
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）	千円	56,065	39,142	38,662
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	166,861	109,642	105,347
	④	単位当たり経費変動率			-34.3%	-3.9%
			評価	かなり良くなった	良くなった	
分析	<コスト変動の理由等> 平成21年度と比べ、平成22年度の経費が減少したため効率性が良くなった。					

C 市民参加度	企画段階	☒ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☐ 無	<現状分析、今後の方針等> 年間約25万人が清掃活動に参加する等、市民参加度は昨年以上に高い水準を保っている。また、「美しいまちづくり推進月間」である11月には、メインとなる「まちの美化市民総行動」に約3,600名が参加し、月間中には約20,000人がボランティア清掃活動に取り組んでいる。
	実施段階	☒ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☐ 無	
	評価段階	☒ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☐ 無	

D 市民満足度	<調査の有無>		<調査結果、現状分析等> まちの美化活動として着実に推進しているが、今後も市民等への周知を進めていく必要がある。
	□有 ■無 □該当しない		
	<調査方法>	<調査時期>	

E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	☒ 環境 ☐ 関連 ☐ 一般	<現状分析、今後の方針等> まちの美観を保全する効果が期待できる。
-------------------	--	--------------------------------------

平成23年度の実施状況	・「世界の京都・まちの美化市民総行動」の取組として、6月の環境月間での街頭啓発及び美化清掃活動、7月の美化清掃活動、11月の「京都市美しいまちづくり推進月間」での美化清掃活動を実施した。 ・市内の観光地や繁華街を散策しながら清掃活動を行う「友・遊・美化パスポート」事業を、年間25回程度実施している。 ・「まちの美化推進住民協定」の締結促進を図り、累計367団体を認定した（平成23年12月末現在）。
-------------	--

市会・監査・外部機関等からの指摘	特になし
------------------	------

Ⅲ 今後の方向性

現状のまま継続	(今後の方向性の理由及び具体的な内容)
	住民自らによる地域に根付いた取組を推進し、市民の「まちの美化」に対する意識の高揚を図り、まちを汚さない、汚させない仕組みづくりを引き続き進めていく。